

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000100		
法人名	株式会社 伸宅		
事業所名	グループホーム 生き生き参番館		
所在地	福岡県柳川市三橋町蒲船津333-1 (電話) 0944-72-7333		
自己評価作成日	平成 28 年 12 月 30 日	評価結果確定日	平成 29 年 2 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた柳川で利用者様らしい生活を安心して送って頂ける事を理念に掲げて、職員一同細やかな質の高いケアを目指している。ご家族との連絡を密にとり信頼関係を築くと共に、訪問看護との医療連携を図り、重度化しても少しでも長く利用者様らしく生活して頂ける様に支援している。また、地域の一員として毎朝、地区のお宮の外掃除を行っており、地域住民の方からの声かけも多く、近隣高校の実習生の研修を受け入れたり、全国からのたすきをつなぐリレーのRUN TOMO-RRROWのイベントにも参加したりと、地域とのつながりを大切にし、地域社会への貢献に努めている。朝礼では、社団法人が発行してある「職場の教養」の冊子に掲載されている一日一話を、毎朝職員へ朗読させ、接遇に対する意識づけを図っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 1 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

柳川駅の東口傍にある区画整理された住宅地に、落ち着いた雰囲気のある2階建ての施設がある。建物の西側に早馬神社があり、利用者の居室から直接参拝ができる。南側には公園が整備予定で、地域の方と交流ができる環境がある。近隣には利用者と散歩を兼ねて買い物に行くことができるドラッグストアがあり、生活をする場所として恵まれている。RUN TOMO-RRROWに職員の方がリレーに参加し、利用者が旗を持って応援に参加され一緒に楽しみながら、社会参加をされている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところに提示し、いつでも理解出来る様にし、職員全員で共有出来るようにしている。	事業所独自の理念があり、出勤時や休憩時間など常に確認できるようにしており、その都度振り返り、利用者へのケアや地域とのつながりに実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として生活出来る様に、区費を納め、町内会に加入しており、日頃から散歩に出かけ地域の方と挨拶を交わしている。また近隣高校（福祉科）の実習生の研修を受け入れたり、全国からのたすきをつなぐリレーのRUN TOMO-RRROWイベントに参加し、地域とのつながりを大切にしている。	町内会に加入し、毎月お宮の清掃活動に利用者と一緒に参加したり、施設の敬老会へ地域の方へ声かけし参加されている。高校生の実習受け入れや利用者の知人が立ち寄られ、地域との交流を大切にしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に散歩に出かける時は近隣の人達と、挨拶を交わしたりしている。また、老人会の方達が施設視察にみえられ、施設の説明を行い、認知症の方の理解、支援方法を伝え、いつでも相談にきていただけるよう声をかけさせていただいている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、運営推進会議を開催し、利用状況、事業所の活動・運営・行事などの状況、スタッフの研修状況を報告し、委員の方より質問や提案をいただき、サービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1回開催されている。事業所からは利用者の介護度や入退所状況、入院や退院状況、行事の報告や研修報告等を行い、参加者からは災害時の避難先の確認や入院のため退所された利用者の退院後の行き先について質問されたりとサービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市高齢者福祉課、包括支援センターの方に委員になって頂いており、欠席の場合は議事録を持参し、近況報告を行うようにしている。また、生保での利用希望者については、担当者の他にも保護課の担当者とも連絡・相談しながら検討している。	日頃から高齢者福祉課や包括支援センターの担当者とは、空室状況など報告を行ったり、生活保護課の担当者や利用者の状態を連絡したり、相談したりしながら連携を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束について勉強会を開催し、理解を深めるように努めている。玄関は施錠せず、玄関のベルがなるようセンサーを設置しており、センサーが鳴ったら、すぐ玄関へ確認しに行く習慣を職員へ徹底し、常に見守りをし、安全確保に努めている。	日中は玄関は施錠しておらず、チャイムやセンサーを活用している。外出傾向がある利用者に対しては職員は把握し、見守りや付き添いの対応を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修会を行い、ケア会議等で話し合い、身体の虐待はもちろん、言葉の虐待についても職員一人ひとり自覚を持ち、お互いに注意する様に確認し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修会の資料を用いて伝達研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、玄関に成年後見人制度のパンフレットを準備し、配布を行い情報提供を行っており、契約時にも利用者・御家族に説明をしている。	利用者の家族へ権利擁護に関する説明は、契約時と必要時に説明を行っている。職員は内部の研修で学び、参加できなかった職員へ伝達研修を行い、制度の理解と活用を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や料金改定の内容について疑問点を確認しながら、納得、理解していただけるよう説明している。同意が得られたら署名・捺印をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域の委員さんから意見を伺い施設運営を図っている。又、御家族には、面会時に状態報告を行うと共に意見や要望を伺い、その都度職員に伝え、より良い運営を目指している。	職員は面会時に利用者の家族から要望を聞いたり、運営推進会議に参加して意見を述べる機会がある。遠方の息子さんに会いたい利用者には、手紙で思いを伝えたら、会いに来られた。利用者や家族の要望は職員間で共有し運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員の意見を聞き入れている。自己評価は全職員で取り組んでいる。又、朝の申し送りやケア会議等で問題提起を行い、意見や提案を出しやすい環境を作り話し合いながら運営に取り入れている。	自己評価は職員全員で取り組んでいる。管理者は日頃から職員へこまめに声かけしたり、朝礼時やケア会議の時に意見や要望を聞く機会を設けたり、希望休や有休などの希望を取り入れ働きやすい職場づくりに反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話しやすい関係作りの為に、思いを聞く様にして精神的安定を図っている。また、年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。希望休や有給を利用し、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中の職員や誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また福祉や社会貢献に対する思いを評価する様にしている。	職員の採用は本部で行っているが、採用条件は年齢や性別など制限は行っていない。出産育児中の職員に対しても、お互いが協力し合い働きやすい職場環境となっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本とらえて事業所の理念として周知している。また、人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送りや会議の中でも職員全員が自らの事として捉える機会を設けている。	全職員で人権研修を行い、参加できない職員には、研修記録を回覧して研修内容を理解し、人権尊重の教育に取り組んでいる。研修のテキストや研修記録もファイルされている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会ある毎に外部研修へ参加し、内部への伝達研修を行う事で個々の力量の向上に努めている。また、外部講師を招き、介護技術の向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の中でも同業者の研修会へ参加し、交流の機会を持ち勉強会を開いている。また他施設の訪問や会合等へ参加することで意見交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、本人、ご家族と会って情報収集を行い、本人との会話の中で不安に思っていることや要望等を汲み取り、安心した生活が始めるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の連絡があったときは、施設に見学に来ていただき、本人の状態やご家族の不安や要望を傾聴し、安心感を持ってもらい、信頼関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の現在の様子、思い等を聞き、必要としている支援を提供するようにしている。必要に応じグループホーム以外のサービスの提案、説明を行い本人に合ったサービスが提供できるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していることを念頭に置き、相互関係の元、日々生活の楽しみ、喜びを共感する様努めている。食事は、スタッフも一緒に食べ、生活空間を共有している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から電話や面会時に本人様の状況や思いを伝え、ご家族の思いも聞き取り、良好な関係作りを努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にこられた際は、居室で会話ができる様、お茶を出し、ゆっくりと談話できる環境を作っている。また、同系列に入居してある身内の方に会える様お連れしたり、馴染みの美容室へお連れしたり、関係が途切れないよう支援している。	管理者や職員は利用者の行きつけの美容室や馴染みの場所を把握している。お花の先生や知人の面会があり、馴染みの人や場所との関係が維持できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態に合わせ、座席配置や外出の際の利用者様同士の相性などを踏まえ、組み合わせを考慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、その後の様子をご家族にお聞きしたり、入院中の方は面会に行き、様子を伺うようにし、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での仕草や行動から利用者様の嗜好や好きなことを読み解くなど、普段の関わりの中で自然に意向を把握している。	職員は日々の関わりの中で、また何気ない会話の中で思いや希望、意向の把握に努めている。帰宅願望があれば正月の一時帰宅や、家族と外食するなど思いの実施に努めている。意思疎通が困難な利用者には、生活歴や表情、行動等から推測したり家族や関係者から情報を得て、本人の思いを大切に、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の何気ないひと言から思い出話を広げることが出来るよう、御家族へ生活歴の確認を行い、情報収集を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時、一人ひとりの一日の過ごし方や生活パターンの情報収集を行い、更に日々の生活の中で、総合的に把握するようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様ごとに担当職員がおり、関係スタッフからの意見や本人やご家族から思いや意向を聞き、現状に即した介護計画を作成している。月1回の会議時に一人ひとりのケアについて検討し、状況変化のある時は随時見直しを行っている。	本人・家族の意見や要望を踏まえて、担当者を中心に、全職員の気付きもいれ、本人本位の介護計画を作成している。3ヶ月毎定期的にまた利用者の状態に変化があればその都度、家族や主治医と相談しながら随時見直している。介護計画書に本人・家族から署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様の状態や実践した内容についての様子を個別に記録し、また全職員が情報共有できるよう送りノートにも記入し、状態を把握している。介護計画の見直しにも活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや、行きつけの美容室へお連れしたり、本人やご家族の個々の状況やニーズに応じてサービスを取り入れ、個別性のある支援に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、地域とのかかわりの中で利用者様の事を知っていただき、地域の方々の協力、理解を得られている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族の意思を尊重し、受診往診しやすい環境を整えている。御家族での受診が難しい場合は、こちらから受診の付き添いを行ったり、状況に応じ臨機応変に対応している。	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診は、看護師が支援している。往診希望の利用者は協力医や主治医と契約時に話し合っている。かかりつけ医との連携を密にし、情報を共有している。また通院介助の方法、情報伝達の方法については家族と話し合い合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い、利用者様の異常時には、看護師へ相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。また、いつでも連絡の取れる体制になっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際、本人様や御家族がストレスを軽減できるよう相談しながら、本人様に関する情報の提供やケアについて話し合っている。退院時はスムーズに退院できるよう病院、本人様、御家族と話し合い関係作りに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとに御家族やかかりつけ医との意向を確認し対応を行い、利用者様を尊重しながら支援を行っている。全職員で話し合い、最後までその人らしい生活ができるよう支援している。	事業所の対応方針があり明文化している。事業所が対応し得る最大の支援方法について利用開始時に、家族に説明している。利用者・家族の意向を大切にしながら、状況に合わせてその都度、利用者、家族、かかりつけ医、職員で話し合っ合意を図り全員で方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態の急変や事故発生等、予測できる所は職員、医療関係者と連携を取り、実際の場面で活かせる様、勉強会などを行い、知識や技術を職員で深めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得て行い、1回は夜間を想定し行っている。運営推進会議で呼びかけ、地域の方とも一緒に行い、協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。1回は消防署の協力を得て、あと1回は夜間設定で実施している。地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけている。非常用備品・食料・飲料水等は事業所内1階と2階の事務室倉庫に備蓄し、全職員が把握している。夜間支援体制をとり宿直者1名をおいている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	採用時には、個人情報の取り扱いの宣誓書を交わしている。また接遇マナーに関する研修を行っており、言葉掛けや対応に問題がある時、スタッフ間で注意しあったり、リーダーが指導している。	職員は利用者の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけている。ミーティングや会議時等で職員の意識向上を図っている。個人情報や守秘義務についても十分理解し、管理を徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の中で、希望や思いを汲み取り、意思表示が上手くできない方も表情や反応をみながら希望を把握し、自己決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の意思を尊重し、一人ひとりのペースで生活ができるように支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、理容室より来ていただき、本人様に希望を聞きながら、その人に合った髪型にしている。衣類は利用者様の好みや季節、気候に応じて一緒に選び、おしゃれを楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みのものを把握し、食事のメニューは同じでも食材を変えて調理し提供している。作業ができる方はテーブルを拭いたり、食器の下膳や食器洗い等、職員と一緒にしている。	昼・夕の食事は、同法人で一括調理され運ばれている。おやつは職員と利用者と一緒に手作りをしている。また季節毎に、おはぎ・スイカ割り・そうめん流し・餅つきなど、またそれぞれの誕生会には、本人の希望をリクエストしてもらい、ご馳走があり、利用者全員の楽しみになっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足を防ぐ為、1日全体を通して必要な食事や水分がとれるよう支援している。又、体調や運動量、体重の増減に合わせ、嗜好品を摂っていただいている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの際には、残歯や義歯の磨き残しや、舌の汚れがないかを確認し、不十分な場合は、仕上げ磨きの介助を行い、また、必要な方には口腔スポンジを使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導や声かけてトイレで排泄できるよう支援している。	自尊心に配慮しながら、身体機能に応じて前誘導や歩行介助をしている。紙パンツやパット等本人にあわせて検討し、習慣を活かして、トイレで排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維を多く含む食材を利用したメニューや乳製品を提供している。適度な運動や散歩を促し、水分補給を多めにする事で自然排便を促すようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴回数、曜日や時間は柔軟に対応しており、拒否される方には時間帯や職員を代えて対応している。入浴時には職員とゆっくり会話し、リラックスして入浴できるようにしている。	入浴は午前・午後希望があれば、いつでも入浴可能にしており、毎日入浴する利用者もいる。1日おきの入浴者が多いが、個々に浴った入浴の支援をし、入浴時での対話を大切にしている。入浴拒否の人には、タイミングや言葉かけの工夫で柔軟に対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、夜間の睡眠に繋がるよう努めている。夜間眠れなかった方や、その方の体調、体力に応じて休息を取って頂けるよう支援している。就寝時間も、その方に応じ就寝支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の内容を把握することで、利用者様の症状や変化に気づけるようにしている。また、医療関係者へ情報提供し服薬調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や、得意分野に応じ、日常的な仕事をお願いしている。また地域の行事参加や散歩、ドライブで外出の機会を増やし、気分転換を図るようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には近くに散歩に出たり、花の時期にはドライブを兼ねて花見に行き、季節を楽しんでいる。身体状況により外出が困難な方でも、テラスに出て外気浴をするなど、季節感を持って生活を楽しんでいただいている。	陽気や、利用者の体調・希望に応じて、日々の散歩、ドライブは月1回を目標に計画的に実施している。初詣、四季の花見、イベント行事であるマラソン応援に参加したり、遠出には同法人の車で、四季折々の花見をするなど積極的に外出できるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が困難な方は家族から預かり金として預かっており、本人が必要な物や希望するものは預かり金で買い物している。一緒に買い物に行ける方は、スタッフの見守りの元、レジでの支払いも行ってもらい、買い物を楽しんで頂けるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、いつでも電話や手紙のやり取りが出来る様になっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天窓から自然光が入り、明るく開放的な雰囲気になっており、季節の花や壁面飾りを置く事で季節を感じてもらえるように配慮している。レクレーションや食事の時間等、その状況に合わせてBGMを流し、居心地良い空間となる様に工夫している。	共用空間は天井が高く開放的でソファが程よく配置され、利用者同士ゆっくり寛げる居場所が確保されている。壁には利用者と職員が協働製作した季節の花のちぎり絵や日常のスナップ・誕生会・イベント写真を掲載している。リビングから直ぐ出れるテラス、自然いっぱいの景色、不快な音や光もなく居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先や廊下、庭等にソファやベンチを置いて気の合う利用者様同士、おしゃべりを楽しんだり、独りのんびりと外の景色を眺められるよう思い思いに過ごせるよう居場所作りの工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の好みを配慮し、家具や寝具、洋服等、今までの生活スタイルに極力近い形にし、利用者様が落ち着いて生活できるように配慮している。	各居室の表札に担当職員を表示し、家族とコミュニケーションを図りやすいようにしている。居室には使い慣れた馴染みのタンスや鏡台、仏壇、テレビなど持ち込み好みの物を活かし、安心して過ごせるように工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーにし、トイレや浴室、脱衣場には適所に手すりを配置し、利用者様が安全に生活できるような造りになっている。またトイレや浴室の表示を分かりやすくする事で、認識間違いを防げるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところに提示し、いつでも理解出来る様にし、職員全員で共有出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として生活出来る様に、区費を納め、町内会に加入しており、日頃から散歩に出かけ地域の方と挨拶を交わしている。また近隣高校（福祉科）の実習生の研修を受け入れたり、全国からのたすきをつなぐリレーのRUN TOMO-RRROWイベントに参加し、地域とのつながりを大切にしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に散歩に出かける時は近隣の人達と、挨拶を交わしたりしている。また、老人会の方達が施設視察にみえられ、施設の説明を行い、認知症の方の理解、支援方法を伝え、いつでも相談にきていただけるよう声をかけさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催し、利用状況、事業所の活動・運営・行事などの状況、スタッフの研修状況を報告し、委員の方より質問や提案をいただき、サービスの質の向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市高齢者福祉課、包括支援センターの方に委員になって頂いており、欠席の場合は議事録を持参し、近況報告を行うようにしている。また、生保での利用希望者については、担当者の他にも保護課の担当者とも連絡・相談しながら検討している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束について勉強会を開催し、理解を深めるように努めている。玄関は施錠せず、玄関のベルがなるようセンサーを設置しており、センサーが鳴ったら、すぐ玄関へ確認しに行く習慣を職員へ徹底し、常に見守りをし、安全確保に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修会を行い、ケア会議等で話し合い、身体の虐待はもちろん、言葉の虐待についても職員一人ひとり自覚を持ち、お互いに注意する様に確認し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修会の資料を用いて伝達研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、玄関に成年後見人制度のパンフレットを準備し、配布を行い情報提供を行っており、契約時にも利用者・御家族に説明をしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や料金改定の内容について疑問点を確認しながら、納得、理解していただけるよう説明している。同意が得られたら署名・捺印をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域の委員さんから意見を伺い施設運営を図っている。又、御家族には、面会時に状態報告を行うと共に意見や要望を伺い、その都度職員に伝え、より良い運営を目指している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員の意見を聞き入れている。自己評価は全職員で取り組んでいる。又、朝の申し送りやケア会議等で問題提起を行い、意見や提案を出しやすい環境を作り話し合いながら運営に取り入れている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話しやすい関係作りの為に、思いを聞く様にして精神的安定を図っている。また、年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。希望休や有給を利用し、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中の職員や誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また福祉や社会貢献に対する思いを評価する様にしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本ととらえて事業所の理念として周知している。また、人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送りや会議の中でも職員全員が自らの事として捉える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会ある毎に外部研修へ参加し、内部への伝達研修を行う事で個々の力量の向上に努めている。また、外部講師を招き、介護技術の向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の中でも同業者の研修会へ参加し、交流の機会を持ち勉強会を開いている。また他施設の訪問や会合等へ参加することで意見交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、本人、ご家族と会って情報収集を行い、本人との会話の中で不安に思っていることや要望等を汲み取り、安心した生活が始めるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の連絡があったときは、施設に見学に来ていただき、本人の状態やご家族の不安や要望を傾聴し、安心感を持ってもらい、信頼関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の現在の様子、思い等を聞き、必要としている支援を提供するようにしている。必要に応じグループホーム以外のサービスの提案、説明を行い本人に合ったサービスが提供できるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の様々な場面において、掃除や洗濯物たたみ、食事の準備、片付け等、一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と、こまめに情報交換をおこない、行事にはできるだけ参加してもらえよう呼びかけ、本人と家族の関係が途絶えないよう関係作りを行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会や外出を通して、これまでの生活や関係を尊重すると共に、地域の活動に積極的に参加できるよう努めている。知人の方の面会も継続してみえてある。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の好みや関係を把握し、お互いが関わり合い支えあえるようにレクリエーションや会話の橋渡し等、職員が間に入り支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、その後の様子をご家族にお聞きしたり、入院中の方は面会に行き、様子を伺うようにし、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様と関わり合う中で、思いや希望の把握に努め、職員間で情報を共有しケアに取り入れている。意思疎通が困難な方は行動や表情から意思・意向を把握できるよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス事業所からの情報収集を行い、入居前に本人やご家族より生活歴や馴染みの暮らし方の情報を得て、ケアに反映している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送りにより一人ひとりの心身状態、1日の生活状況を観察し、現状の把握に努めている。また、連絡ノートを活用し情報を共有することで、状況の変化にもすぐに対応できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様ごとに担当職員がおり、関係スタッフからの意見や本人やご家族から思いや意向を聞き、現状に即した介護計画を作成している。月1回の会議時に一人ひとりのケアについて検討し、状況変化のある時は随時見直しを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様の状態や実践した内容についての様子を個別に記録し、また全職員が情報共有できるよう申し送りノートにも記入し、状態を把握している。介護計画の見直しにも活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや、行きつけの美容室へお連れしたり、本人やご家族の個々の状況やニーズに応じてサービスを取り入れ、個別性のある支援に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、地域とのかかわりの中で利用者様の事を知っていただき、地域の方々の協力、理解を得られている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族の意思を尊重し、受診往診しやすい環境を整えている。御家族での受診が難しい場合は、こちらから受診の付き添いを行ったり、状況に応じ臨機応変に対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い、利用者様の異常時には、看護師へ相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。また、いつでも連絡の取れる体制になっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際、本人様や御家族がストレスを軽減できるよう相談しながら、本人様に関する情報の提供やケアについて話し合っている。退院時はスムーズに退院できるよう病院、本人様、御家族と話し合い関係作りに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとに御家族やかかりつけ医との意向を確認し対応を行い、利用者様を尊重しながら支援を行っている。全職員で話し合い、最期までその人らしい生活ができるよう支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態の急変や事故発生等、予測できる所は職員、医療関係者と連携を取り、実際の場面で活かせる様、勉強会などを行い、知識や技術を職員で深めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得て行い、1回は夜間を想定し行っている。運営推進会議で呼びかけ、地域の方とも一緒にいき、協力体制を築いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定しやすい言葉かけや、利用者一人ひとりの生活習慣等、本人の意思を尊重し出来る限り継続できるよう支援している。又、トイレや入浴時には特にプライバシーを損ねないような声かけの仕方や場所の配慮等に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中から食事で食べたい物、必要な物、行きたいところなどの希望を聞き出せるよう心がけ、自己決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や気持ちを考え、昼間、横になりたい、と希望される方には、居室で休んでいただいたり、外に出掛けたいと希望される方には、ドライブや散歩に出掛けたり、その人らしいペースで暮らせるよう心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時は出来る限り、本人に服を選んでもらい、本人の意思を尊重するようにしている。選ぶことができない利用者に関してもその方の嗜好を職員が考慮して選択している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に合わせ後片付けを職員と一緒にしており、職員も一緒に食卓を囲み、利用者の体調に合わせた食事介助を行うなど、一人ひとりが食事を楽しめるように、寄り添いながら支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に記録し把握している。食事や水分確保が難しい時は形態を変えたり、好まれる食べ物や飲み物を提供している。また補水液を毎日準備し摂取して頂いている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ずつ口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。義歯使用の方は外して洗浄している。必要な場合にはご家族に連絡し歯科往診を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にその都度記入し、排泄パターンの把握に努めている。時間ごとや訴え時等トイレ誘導を行っている。また排泄のサインを見逃さないように、自立に向けた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材やヨーグルトや牛乳を提供し、毎日の運動で身体を動かし、腸の活性化を促し便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者様の体調に合わせ、立位保持の難しい方には職員2人で介助にあたり、時間帯の希望や毎日入浴を希望される方には、希望に沿った入浴支援をしている。拒否のある利用者様には、時間をおいて再度声掛けするなど工夫している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や生活習慣状況に合わせて日中は出来るだけ規則的な生活リズムを利用者様ごとに行い、夜間良眠して頂けるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の内容を把握することで、利用者様の症状や変化に気づけるようにしている。また、医療関係者へ情報提供し服薬調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には食事の片付けや、洗濯物たたみや掃除等の家事を一緒に行っていただき、また、歌や外出等の楽しみ事などといった個々に応じた生活歴や力を活かせる役割を見つけ、その人らしく過ごして頂けるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事の他にも、一人ひとりのその日の希望に添って散歩等の外出支援を行っている。家族との外出の際には混乱なく楽しく出かけられるように努めている。体調、歩行に不安がある時は介助のアドバイスや車椅子の貸し出しを行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が困難な方はご家族から預かり金として預かっており、本人が必要な物や希望するものは預かり金で買い物している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の取り次ぎを行えるようにしており、居室でもゆっくり話ができるよう子機を使用するなど支援している。また、御家族へ手紙を出したい、と希望があった方には、本人の言葉を代筆して手紙を書き出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感のあるものを置いたり、廊下には写真を貼ったりしている。フロアは天井が高く、開放感があり、窓からの日差しが入り、気温等に応じエアコンにて温度調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはにはソファ、テーブル・椅子があり、利用者同士くつろがれたり、ゆっくり過ごされたり、思い思いのまま過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境に少しでも近づくようにタンスなど使い慣れた物や馴染みの物を持って来て頂き、好まれる方はテレビを置いていただき、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室は分かりやすいように大きな字で表示している。段差もなく廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。また、椅子やテーブル等は位置を考え安全な環境作りを行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない